

### 第3回ワークショップ

平成21年9月30日（水）17：30～20：00

テーマ 「大磯の現在、過去、未来」について

- 東京に在住の友人 大磯に住んでいることがうらやましい。  
大磯に来ると、頭痛が治る。空気がよい。緑をどう守るか。  
「今後は、発展をしなくてもよいというニュアンスなのか。」
- 大磯に約38年住んでいる。住めば都と考えている。東京から来る友人は何年来ても変わらない。  
東京から近くて、よい所だと言っている。  
マンション計画、私有地に建てているからいけないとは言えない。  
業者が潰れて、マンションが建設中で止まってしまっているものもある。
- 緑、海浜 大磯の名前を残したい。自然が少なくなっている。  
自分が住んでいる地域の問題は、道路が狭い。また行き止まりになっていることもあり、大きな問題になっている。  
大規模な施設の建設計画がある。旧道からの侵入を考えているが、そこに行くまでのアクセスが悪い。  
「権利とエゴの差は無い。景観を楽しんでいるから目の前にある竹林を切るな。  
町のために何がプラスなのか。」
- 居住している地域は大変に環境がよい。  
西湘バイパスの利用頻度が高い。台風で崩壊した際には、国道が非常に混雑した。道路整備が必要。  
葛川と不動川が合流して、海に注いでいる。台風の時等に河口が閉塞して、川の流れが堰き止められ、池のようになってしまうことがある。最初のうちはいいが、干上がってくるとヘドロ等が出てきてくさくなる。何とかしないとせっかくの環境が台無しになる。
- 生まれてくる子どもがよい環境の中で育ってほしい。  
子育て支援に対してもっと充実させてほしい。現状では足りない。  
出産に対して、家族の支援が無い。出産後の協力がほしい。自分が見ないといけない。団体や、ヘルパーに頼らざるを得ない。経済面が大変。  
一時保育の預かりは、2ヶ月からでないとダメ。  
「困っている」⇒決まりだからの一点張り（個人的に根に持っている。）  
待機児童の問題、受け皿の充実。  
大磯で受けられるサービスの拡充をしてほしい。  
「地域のつながりはどうか。自分が子どもの頃は、他人が育ててくれた。  
今、何かあったら誰が責任を取るのか。」
- 学校給食、地産地消＝大量に安定した供給が出来なければ地産地消は、難しい。  
自然＝テーマは違っていても、すむことを基本としなければならない。

入口＝イニシアチブ（国民発案制度）導入できるのではないのか？ 出口に該当するのがオンブズマンになる。

町に提案し、議会は審議しなければならない。

- 責務について＝ペットを飼う 餌をあげる＝義務 あげないと→罰金 （第3者が認定）  
愛情をもって接する＝責務 法の介入が出来無い

従来のオンブズマン＝官にものを申すだけだった。

民々でのオンブズマン 人権がでてきている

自然は、人の手が入るから保全になる。どこに手を入れるかが問題  
保持するには手を入れないといけない。

- 前から疑問に思っていた。開発の業者は、都合のいい場所を開発している。

町民の責務、理念＝木を植える（開発と保全）

- 文化施設が無い 利用者は町外へ行って割高の料金を取られている。 文化施設がほしい。

今、ある施設の利用が下手。図書館の会議室の収容能力が 70 人くらいあるにもかかわらず、前例が無いからといって断られている。

ふれあい会館にしても然り。条例に無い。身の丈にあった考え方をするのも一考では。

ボランティアの発掘をどうしたらいいのか。仲間が増えたらいい。

市民、町民の定義をどうするか。意見を広報で収集する。

市長、町長への手紙 何でも出せばよいものでもない。審議する会「町民の代表」

青森では、地域ボランティアが活発

町に言いにくい、異動のシステムを調整出来ないものか。いろいろ準備してきていざというときに異動になって、1歩前進、2歩後退では気持ちが萎える。

執行フォーム、政策フォーム

使用に関して、事前に準備する必要がある。

合同による会議

学生に募集の回覧を作ってもらった。手直しがあれば意見をもらいたい。（別添）

HPでアップしたが、効果が無かった。

回覧は可能か。配布員の協力が必要 開催日の月ごとに出すのでは負担が大きい。

日付を記載しないで、開催の旨を周知し、詳細は事務局に確認するようにしたらどうか。

テーマとして、「町民、市民」。協働をどうしていくか。参加の手続きとは。

次の開催は、10月21日（水）17：30から